

電機大手各社の中国版 RoHS 対応状況



2007年3月に施行予定の中国版 RoHS は、欧州連合 (EU) 各国で7月に施行されました特定有害物質規制 (RoHS) に類似しており、中国で販売する特定の電子製品について鉛やカドミウムなどの使用を原則禁止しています。ただ、規制そのものの詳細は不明の為、各社とも分かる範囲で対応しているのが現状です。

沖電気は欧州版と同等の対応を進めています。中国で生産する製品の構成部品は現地で仕入れるケースが多く、調達品に規制物質が混入していれば大きなリスクになります。この為、同社は対策の一環としてトレーサビリティ (生産履歴の追跡) が明確な調達を展開しています。化学物質管理を徹底して実施し、プリンターや情報・通信機器分野で規制対象物質の混入リスクが少ない仕入れ先を選定し、絞り込みました。

NEC は仕入れ先が生産時に特定の化学物質を管理する仕組みを構築できているかを評価する「アセッター」の育成を急いでいます。中国など東南アジアを中心に100人を追加育成する構えです。

コニカミノルタホールディングスは、内外の仕入れ先約410社を対象に部材に有害物質が混入するのを防ぐ為のノウハウを提供し、これを認定する制度「コニカミノルタコラボレーションプログラム」を導入します。

電機メーカーにとって中国は巨大市場であり、それだけに対応を進め規制の詳細が明らかになる前に先手を打っておく必要があります。今年7月に施行されました欧州 RoHS 対応に限らず、化学物質の管理を強化する動きは今後も重要性を増してきます。

当社では本年7月1日より施行されました RoHS 指令に対応する特定有害化学物質の分析を受け付けております。ご質問等ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

資料 平成 18 年 11 月 10 日付 日刊工業新聞

商品開発箇所 須賀重政